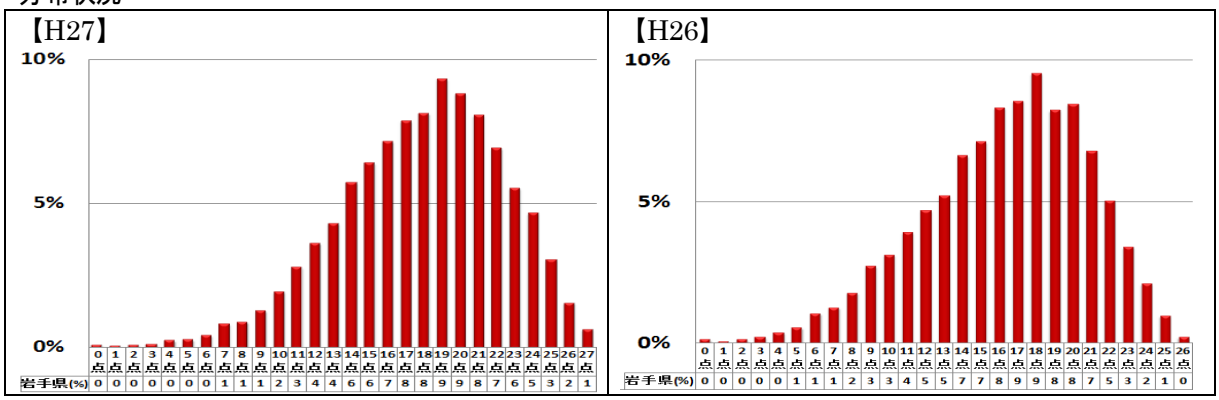
平成 27 年度学習定着度状況調査　指導資料　　平成 27 年 12 月　発行　岩手県教育委員会

# 授業改善の手引　中学校第２学年国語

## 1　調査結果

### (1)　分布状況




○　問題数は昨年度と同じで，正答数の最頻値は 19 問，平均正答数は 18 問です。昨年度の分布と比較して山が若干右に移動しています。また，正答数 20 問以上の層が増えています。

（正答数の最頻値：該当する生徒数の最も多い正答数）

### (2)　領域等の正答率

| 領　域　等 | | 正答率<br>（　）は H26，〈　〉は H25 | | |
|---|---|---|---|---|
| 話すこと・聞くこと | （ 5 問） | 67% | (62%) | 〈83%〉 |
| 書くこと | （ 2 問） | 62% | (60%) | 〈63%〉 |
| 読むこと | （ 8 問） | 53% | (54%) | 〈55%〉 |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | (12 問) | 76% | (70%) | 〈74%〉 |
| 活用 | （ 7 問） | 51% | (52%) | 〈61%〉 |

### (3)　結果概要

○　伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の「漢字の部首について理解する」，「故事成語について理解する」問題の正答率は，年々改善が見られよい状況にあります。

○　「読むこと」の領域の「文章の描写に即して人物の言動の意味を捉える」問題の正答率 63%，「表現の仕方を捉えて読む」問題の正答率 52%と，昨年度より改善が見られよい状況にあります。

●　伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の「語句に関する類別の理解を深める」問題では，変則的な主・述の関係を捉えられない生徒が多く見られました。文の成分どうしの関係を形式的に捉える指導だけではなく，文の成分について十分理解させる必要があります。

●　昨年度改善が見られた伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の「正しい敬語に直す」問題では，敬語に直すことはできても，その敬語の種類についての理解は進んでいない状況にあります。敬語を使う対象と程度について，具体的な場面を想定した指導の工夫が必要です。

### (4)　経年比較問題の状況（○改善，◇改善傾向，●課題が継続，▲は前回調査との比較マイナスを表す）

| 小問 No | 正答率 | 比較 | 小問 No | 正答率 | 比較 |
|---|---|---|---|---|---|
| ○ 4(話・聞) | 71 | 13 | 24(読) | 36 | 0 |
| ●13(伝国) | 51 | ▲12 | ◇25(読) | 36 | 6 |
| ○21(読) | 37 | 15 | ●27(書) | 55 | ▲6 |

●　小問 24，27 は，依然として課題が継続している状況です。

●　小問 13 は，正答率が前回調査を著しく下回り，課題が深刻化している状況です。

## (5) 小問別正答率

| 問題番号 大問 | 中問 | 小問 | 通し番号 | 調査問題のねらい | 学習指導要領との関連 | 主な観点 | 備考 | 正答率 | 選択 No. 1 選択 | 2 選択 | 3 選択 | 4 選択 | 5 誤答 | 6 正答 | 0 無解答 (%) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | (1) | ア | 1 | 話の中心を捉えて聞く。 | 第2学年「話・聞」(1)エ | 話・聞 | 活用 | 43 | | | | | 53 | 43 | 4 |
| | | イ | 2 | 話の中心を捉えて聞く。 | 第2学年「話・聞」(1)エ | 話・聞 | 活用 | 44 | | | | | 43 | 44 | 12 |
| | (2) | | 3 | 話の中心を捉えて聞く。 | 第2学年「話・聞」(1)エ | 話・聞 | | 88 | 2 | 3 | 7 | 88 | 0 | | 0 |
| | (3) | | 4 | 話し手の工夫を理解して聞く。 | 第2学年「話・聞」(1)エ | 話・聞 | 経年 | 71 | 71 | 11 | 10 | 8 | 0 | | 0 |
| | (4) | | 5 | 話の中心を捉えて聞く。 | 第2学年「話・聞」(1)エ | 話・聞 | | 90 | 3 | 90 | 4 | 1 | 1 | | 0 |
| 2 | (1) | ① | 6 | 漢字「頼もしい」を正しく読む。 | 第2学年「伝国」(1)ウ(ア) | 伝国 | | 97 | | | | | 2 | 97 | 1 |
| | | ② | 7 | 漢字「授与」を正しく読む。 | 第2学年「伝国」(1)ウ(ア) | 伝国 | | 87 | | | | | 11 | 87 | 2 |
| | | ③ | 8 | 漢字「微調整」を正しく読む。 | 第2学年「伝国」(1)ウ(ア) | 伝国 | | 95 | | | | | 4 | 95 | 1 |
| | (2) | ① | 9 | 漢字「支える」を正しく書く。 | 第2学年「伝国」(1)ウ(イ) | 伝国 | | 92 | | | | | 3 | 92 | 5 |
| | | ② | 10 | 漢字「遺産」を正しく書く。 | 第2学年「伝国」(1)ウ(イ) | 伝国 | | 72 | | | | | 23 | 72 | 5 |
| | | ③ | 11 | 漢字「肺活量」を正しく書く。 | 第2学年「伝国」(1)ウ(イ) | 伝国 | | 81 | | | | | 13 | 81 | 6 |
| 3 | (1) | | 12 | 漢字の部首について理解する。 | 第2学年「伝国」(1)ウ(ア)(イ) | 伝国 | | 75 | 75 | 9 | 3 | 12 | 0 | | 0 |
| | (2) | | 13 | 語句に関する類別の理解を深める。 | 第2学年「伝国」(1)イ(ウ) | 伝国 | 経年 | 51 | 4 | 51 | 35 | 9 | 0 | | 1 |
| | (3) | A | 14 | 正しい敬語になおす。 | 第5・6学年「伝国」(1)イ(ク) | 伝国 | | 89 | | | | | 8 | 89 | 3 |
| | | B | 15 | 正しい敬語になおす。 | 第5・6学年「伝国」(1)イ(ク) | 伝国 | | 39 | 36 | 39 | 22 | 1 | 1 | | 1 |
| | (4) | | 16 | 熟語の構成について理解する。 | 第5・6学年「伝国」(1)イ(エ) | 伝国 | | 51 | 31 | 9 | 51 | 9 | 0 | | 1 |
| | (5) | | 17 | 故事成語について理解する。 | 第5・6学年「伝国」(1)イ(イ) | 伝国 | | 79 | 3 | 7 | 79 | 11 | 0 | | 1 |
| 4 | (1) | | 18 | 文章の描写に即して人物の心情を捉える。 | 第2学年「読」(1)イ | 読 | | 77 | 6 | 9 | 6 | 77 | 0 | | 1 |
| | (2) | A | 19 | 文章の描写に即して人物の心情を捉える。 | 第2学年「読」(1)イ | 読 | 活用 | 47 | | | | | 34 | 47 | 19 |
| | | B | 20 | 文章の描写に即して人物の言動の意味を捉える。 | 第2学年「読」(1)イ | 読 | 活用 | 63 | 13 | 11 | 63 | 10 | 0 | | 3 |
| | (3) | | 21 | 表現の仕方を捉えて読む。 | 第2学年「読」(1)ウ | 読 | 経年 | 52 | 12 | 11 | 23 | 52 | 0 | | 2 |
| 5 | (1) | | 22 | 文章の展開に即して内容を捉える。 | 第2学年「読」(1)イ | 読 | | 56 | 56 | 14 | 13 | 15 | 2 | | 1 |
| | (2) | | 23 | 文章の展開に即して内容を捉える。 | 第2学年「読」(1)イ | 読 | | 54 | 4 | 54 | 20 | 19 | 1 | | 2 |
| | (3) | | 24 | 文章の展開を確かめながら要旨を捉える。 | 第2学年「読」(1)イ | 読 | 経年活用 | 36 | | | | | 32 | 36 | 33 |
| | (4) | | 25 | 文章の構成や展開を捉える。 | 第2学年「読」(1)ウ | 読 | 経年 | 36 | 13 | 28 | 19 | 36 | 0 | | 4 |
| 6 | | | 26 | 伝えたい事柄を明確にして適切な構成を工夫する。 | 第2学年「書」(1)イ | 書 | 活用 | 68 | | | | | 17 | 68 | 15 |
| | | | 27 | 資料から課題を見つけ，根拠を明確にして自分の考えを書く。 | 第2学年「書」(1)ア，ウ | 書 | 経年活用 | 55 | | | | | 28 | 55 | 16 |
| | | | | | 全体正答率 | | | 66 | | | | | | | |

## ２　指導のポイント

### ⑴　話すことと聞くこととを関連付けて取り扱い，話の展開や要点を交流し合う学習活動を行いましょう。

**ア　問題の概要　【活用問題】**

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ⑴ 話の中心を捉えて聞く。　第２学年「話・聞」⑴エ | 正答率　ア 43%　イ 44% |

**イ　誤答分析**

(ｱ)　誤答率はア 53%，イ 44%でした。誤答を分析すると，アは枝打ちや間伐の「目的」ではなく，そのものの「意味」について，イは動物や森全体へは関わらない間伐の効果についての解答が多く見られました。

(ｲ)　この問題では「木を育てる手順とその目的，効果をきちんと聞く」ことと「話の展開に合わせて要点を整理する」ことが求められます。

(ｳ)　話のそれぞれの部分については聞き取っているものの，話の構成や展開に注意して聞くことが不十分だったと考えられます。

**ウ　指導上の留意点　【関連問題　小５－１⑴】**

(ｱ)　必要に応じて質問し，相手が言いたいことを確かめたり，足りない情報を聞き出したりすること，事実と意見との関係などに注意しながら聞くことは，既に第１学年で学習しています。第２学年ではその学習の上に立って，話の中心的な部分と付加的な部分とを聞き分け，話の要点はどのようなことであり，それはどのような事実に基づいているのかを捉え，話全体がどのようにまとめられているか考える学習をする必要があります。

(ｲ)　話すことと聞くこととの一体的な指導を行うことが大切です。例えば，説明を行う言語活動において，話し手には，「説明の中でどこが大切なのか」「何を伝える必要があるのか」を意識し，事実と意見，内容と順序など論理的な構成や展開を考えて話すことを指導し，聞き手には，話し方について意見や感想を述べるにとどまらず，話の筋道について検討しながら聞き取り，分かりにくいところを質問したり，話の内容について意見を述べたりするよう指導することが必要です。説明やインタビューの動画を見ながらメモを取り，メモを基に話の展開や要点を交流し合う学習活動も効果的です。

### ⑵　賛成か反対かなど自分の立場を決めて，具体的な根拠を示して意見を述べる学習活動を行いましょう。

**ア　問題の概要　【経年比較・活用問題】**

| | | |
|---|---|---|
| 6 | 資料から課題を見つけ，根拠を明確にして自分の考えを書く。　第２学年「書」⑴ア，ウ | 正答率　55% |

**イ　誤答分析**

(ｱ)　誤答率は28%，無解答率は16%でした。昨年より無解答率は下がっており，書くことに対する意欲や姿勢についてはよい傾向です。誤答を分析すると，「自分の考えのみを述べたり，資料の根拠としての示し方が不十分だったりするもの」が多く見られました。

(ｲ)　この問題では「自分の立場に対する根拠を資料から読み取る」ことと「読み取ったことを根拠としてきちんと示す」ことが求められます。

(ｳ)　「資料の内容を根拠に挙げながら書く」ための，数値等の捉え方や書き表し方の理解が不十分だったことが，自分の考えを明確にして書くことの不十分さにつながったと考えられます。

**ウ　指導上の留意点　【関連問題　小５－６】**

(ｱ)　「根拠を明確にして書く」ためには，自分の考えの根拠が，文章中に明確に書かれているかどうかを常に吟味することが必要です。自分の思いや考えを繰り返すだけでは相手によく伝わる文章とはならず，複数の実例や専門的な立場からの知見を示すことが必要になってきます。このことは，既に第１学年で学習しています。第２学年ではその学習の上に立って，考えや意見の根拠となる事実や事柄について，その妥当性を生徒が吟味しながら具体的に記述する学習を取り上げる必要があります。また，図表やグラフなどの資料を読み取った上で，具体的な数字等を挙げて質問し合う学習活動も効果的です。

(ｲ)　書くことの課題としては，社会生活の中の様々な問題を取り上げることの他に，読むことの指導と関連させて，説明的な文章における筆者の意見や論の進め方，文学的な文章における登場人物のものの見方や考え方を取り上げることも考えられます。「意見を述べる文章を書く」ためには，「①どのような事柄について取り上げるかを決める」，「②論点について賛成か反対かなど自分の立場を決める」，「③自分の考えの中心や主張を明確にして書く」ようにすることが大切です。

**(3)　文章全体を俯瞰して，段落の役割，構成や展開を分析し，その意図を考える学習活動を行いましょう。**

**ア　問題の概要　【経年比較問題】**

| | | |
|---|---|---|
| 5 | (4) 文章の構成や展開を捉える。　第２学年「読」(1)ウ | 正答率　36% |

**イ　誤答分析**

(ｱ)　誤答で最も多いのは，選択肢【２】ですが，【３】も２割あり，「三種類の『間』の説明」と，「日本文化の特徴の考察」を示す段落の判断に，戸惑ったことがうかがえます。

(ｲ)　この問題では，9段落で「三種類の『間』」を基に考えをまとめ，10・11段落で「間」が「和」の実現に不可欠であることを，日本文化の特徴として考察している点を捉えることが求められます。

(ｳ)　文章の全体を俯瞰して，大きく捉えず前から順番に読み進め，一つ一つの段落の役割を考えていこうとしたため，解答にばらつきが出たものと考えられます。

**ウ　指導上の留意点　【関連問題　小５－５(4)】**

(ｱ)　文章の構成や展開を分析的に捉え，その工夫や効果について自分の考えをもつことについては，既に第１学年で学習しています。第２学年では，文章の構成や展開について「自分の考えをまとめる」ことが求められます。文章の構成や展開について自分の考えを書いたり発表したりする際に，自分の考えを支える根拠となる段落や部分などを挙げるようにすることなどが大切です。

(ｲ)　文章の構成をつかむ学習の際には，段落の役割を形式的ではなく，「問題や課題などについて述べる段落」「具体例や資料などについて分析する段落」「考えや意見を述べる段落」「結論で述べたことを発展させる段落」など内容によって捉えるとともに，そのような表現をした書き手の目的や意図を考えたり，その効果について考えたりすることを指導していく必要があります。

**【説明や評論などの文章を読み，内容や表現の仕方について自分の考えを述べる活動を位置付けた展開例】**

教材例　長谷川 櫂「和の思想」より（平成 27 年度岩手県中学校学習定着度状況調査　中学校第２学年国語　5）

「C　読むこと」の指導事項 ウ を言語活動例 イ を通して指導する場合の評価規準例
「評論の文章を読んで，文章の構成や展開の工夫について，根拠となる部分を挙げて自分の考えをもっている。」

**【第１時　学習課題】**
**「三種類の「間」の説明の仕方の共通点と相違点を指摘し，自分の考えを交流しよう。」**

【学習内容】
ア　「空間的な間」と「時間的な間」は日本と西洋の「対比」によって説明されていること
イ　「心理的な間」については「対比」がされていないこと
ウ　西洋の例の説明では批判的な表現が見られること

**【第２時　学習課題】**
**「三種類の「間」を根拠としたときの結論を指摘し，論の進め方を説明しよう。」**

【学習内容】
ア　日本語の「間」という言葉の３つの意味を根拠として，「間の使い方はこの国のもっとも基本的な掟であって，日本文化はまさに間の文化ということができる」という結論が導かれていること
イ　10　11段落では，結論にある日本文化についての特徴を考察していること

**【第３時　学習課題】**
**「『和の思想』の内容を基に日本文化について考えたことを交流しよう。」**

【学習内容】
ア　「日本文化は間を基本的な掟とすることで，異質なもの同士の対立を和らげて調和させ，共存させることで和を実現しようとしてきた」と筆者は考えていること
イ　「和は間があって初めて成り立つ」と筆者は考えていること

**【第２時展開例】**

1　学習課題を把握する。
**「三種類の「間」を根拠としたときの結論を指摘し，論の進め方を説明しよう。」**

2　日本語の「間」という言葉の３つの意味を根拠としたとき，結論はどの部分なのかを自分で考えたあと，グループで交流する。
○　9段落の「間の使い方はこの国のもっとも基本的な掟であって，日本文化はまさに間の文化ということができる」という結論が導かれている。

3　10・11段落が必要かどうかを検討することで，段落が果たしている役割と内容について確認する。
○　10・11段落は，結論で述べたことを発展させる役割を果たしていて，「間」が「和」の実現に不可欠であることを，日本文化の特徴として考察している。

4　論の構成や展開について分析し，説明する。
○　筆者は，「日本語の間という言葉の意味」として３つの例を挙げ，西洋との比較を通して明確に示している。それらの例を根拠として，「間の使い方はこの国のもっとも基本的な掟であって，日本文化はまさに間の文化ということができる」という結論を導きだし，さらに日本文化の特徴に対する考察を加えることで論を発展させている。

5　学習を振り返り，次時の課題を確認する。